

栄養発生生物学 (Nutri-developmental biology) —動物の発生を調節する栄養環境への応答機構—

上村 匡 先生

京都大学大学院 生命科学研究所 教授

日時：平成30年11月22日（木）15:30～

会場：生体調節研究所 1F 会議室

ヒトを含む動物は絶えず変化する環境にさらされており、その主な要因の一つは食餌から摂取する栄養である。栄養素は各々単独で個体の成長や健康に影響を与えるのではなく、互いのバランスが重要であると報告されている。我々は、様々な栄養バランスに対して個体はどのように応答して、成長速度、生殖能、寿命などの生活史形質 (life-history traits) が調節されているかに興味を持ち研究している。本セミナーでは、栄養バランスの変化に柔軟に適応して成長できるショウジョウバエの種と、できない近縁の種との間で、遺伝子発現や代謝レベルでの生体応答を比較して適応能力の分子基盤を追究した研究を報告する。また、栄養環境への応答を細胞レベルでの観察を糸口に研究している例や、応答を支える組織の発生を生体内イメージングにより解析している現状を報告する。

上村先生は、常に斬新なサイエンスを展開される研究者で、いつお話を伺っても楽しく、そして感動を覚えます。「研究者の手本」となる先生のお一人ですので、若手のみなさんも是非奮ってご参加ください！